

# 国道8号野洲栗東バイパス 栗東第二IC付近の工事における渋滞対策及び戦略的広報

柴田 真次

近畿地方整備局 滋賀国道事務所 計画課 (〒520-0803 滋賀県大津市竜が丘4-5)

国道8号野洲栗東バイパス事業の終点部は、国道8号、国道1号、名神高速道路栗東第二ICのONランプ、OFFランプが接続する交通の要衝である。工事の実施にあたり、国道及びランプ交通を確保しながら工事を進めていくが、工事進捗に伴い、国道8号、名神高速道路への出入口の通行経路を段階的に変更する計画である。本稿は、交通量が多い道路構造が複雑な箇所において、交通を分散し、円滑な交通流動を確保しながら長期間にわたる工事を実施するための渋滞対策及び道路利用者への広報の取り組みを紹介するものである。

キーワード 交通の要衝、交通規制、渋滞対策、広報

## 1. はじめに

### (1) 国道8号野洲栗東バイパスの概要

国道8号の野洲市から栗東市までの区間は、沿道に事業所、工場、店舗、住宅、病院が存しており、各所において慢性的な交通混雑が発生し安全かつ円滑な自動車交通が阻害され、主要幹線道路としての機能を発揮できていない状況である。

野洲栗東バイパスは、名神高速道路への円滑なアクセスを可能とし、国道8号の交通混雑の緩和、交通安全の確保を目的とした延長4.7kmの道路である。事業の完成により、バイパス区間が現道の通過交通を分担することから、現道における交通混雑の緩和が図られるなど、安全かつ円滑な自動車交通の確保に寄与するものである。

本事業の進捗は、昭和57年度に事業化され、平成12年度に都市計画決定、平成25年度に用地取得に着手し、平成28年度より工事着手し、令和7年秋の開通に向けて鋭意工事を進めているところである。(図-1,2)



図-2 栗東第二IC付近完成イメージ

### (2) 終点部の交通状況および工事実施の課題

野洲栗東バイパスの終点部は、国道8号、国道1号が結節し、さらに名神高速栗東第二IC（栗東ICから国道8号、1号に接続するインターの名称）のONランプOFFランプが接続し、交通の要衝となっている。

終点部(栗東第二IC付近)における国道8号の交通量は27,343台/日、混雑度は2.32であり、ピーク時間交通量は設計交通容量以上のため、ピーク時では交通処理が不可能な状態となり、日々渋滞が発生し地域の生活に大きな影響をあたえている。

また、国道8号の渋滞により名神高速道路OFFランプから国道8号へ合流が緩慢となり、名神高速道路OFFランプの渋滞の要因となっている。実際、朝・夕の通勤時間帯の栗東第二IC付近は、慢性的に渋滞が発生している。このような交通量の多い箇所における交通規制（段階的に通行経路を変更）は、さらなる渋滞の悪化が懸念されるため、渋滞対策や戦略的な広報により交通の分散及び円滑な交通流動の確保を図る必要がある。(図-3,4,5)

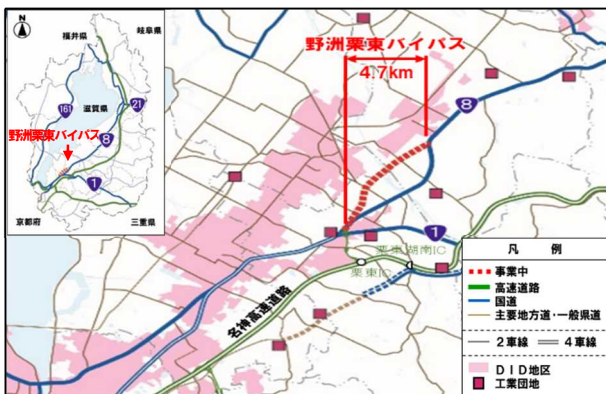


図-1 国道8号野洲栗東バイパス位置図



図-3 栗東第二IC付近の現況（航空写真）



図-4 国道1号，国道8号の分岐部



図-5 名神高速，国道8号の合流部

## 2. 工事ステップ

栗東第二ICの工事に伴う交通規制を検討するにあたり施工性及び工期短縮を優位としてONランプ及びOFFランプの通行止めを検討したが、周辺道路への影響が大きいため不採用とした。

よって、交通規制は現道交通を確保しながら工事を進める計画とし、工事にあわせて段階的に通行経路を変更するため着手から完成まで合計8ステップとなった。

2021年4月頃からインター周辺で準備工事に着手し、2021年7月中旬頃から、名神高速道路から国道8号へ降

りるOFFランプを撤去のため、国道8号(福井方面)へ降りる車は、国道1号のOFFランプ(大津方面)で降りて、国道1号を越えて、8号(福井方面)へ行く事になり、通行経路が大きく変わる予定(STEP2)である。(図-6)

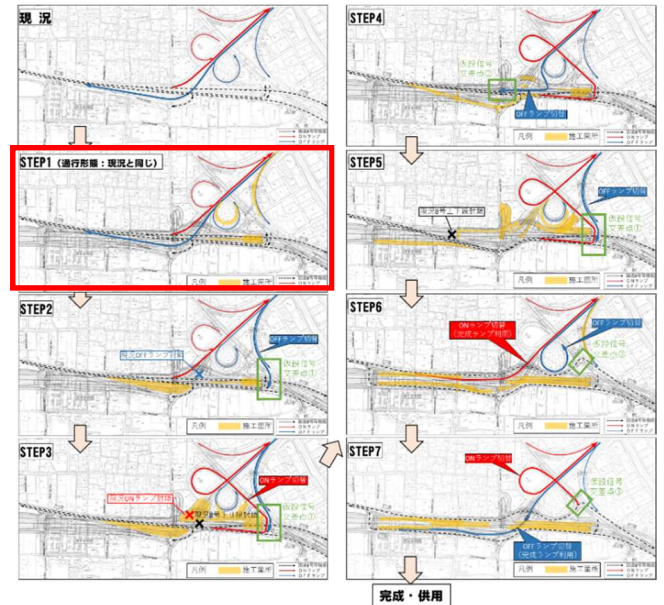


図-6 栗東第二IC工事に伴う交通切替（予定）

## 3. 戦略的広報

工事実施時の交通分散を図るには、いかに交通規制の存在を広く地域の人に知ってもらえるかが肝となる。2020年度より月に1回、滋賀県、野洲市、守山市、栗東市、滋賀国道事務所野洲栗東バイパス連絡調整会議を実施し、工事の実施時期等の事業進捗状況を共有した。その会議の中で、どのような時期にどのような広報をすれば効果的なのか、地域に適した広報何なのか、市の広報紙の原稿締め切りはいつまでなのか、ポスターやリーフレットにはどのような情報を盛り込み、どのようなデザインが分かりやすいか等を議論した。

以上の結果、リーフレット、ポスター、地域の広報紙、ラジオ、テレビ、横断幕、ホームページを活用することとし、効果的な広報となるよう戦略的広報を展開した。(図-7)



図-7 野洲栗東バイパス連絡調整会議



a) ポスター、リーフレットの配布

ポスター、リーフレットにはQRコードを載せ、QRコードを読み込めば、滋賀国道事務所のホームページの野洲栗東バイパスの工事規制情報につながるようにし、最新の工事の進捗状況、規制状況が分かるように工夫。それらを県、近隣の市、警察、高速隊、NEXCO、道の駅、トラック協会、バス協会、タクシー協会、自治会、商工会議所、消防、病院等に幅広く配布。(図-8)



図-8 ポスターおよびリーフレット

b) ラジオによる周知

FM滋賀で野洲栗東バイパス工事の開始と交通規制のお知らせを放送することにより、ラジオを聞くドライバー等へ広く周知。

c) テレビによる周知

テレビを用いて、野洲栗東バイパス工事の開始と交通規制のお知らせを放送することにより、地域住民へ広く周知。(図-9)



図-9 2021年3月20日 BBCびわこ放送(しらしがテレビ)

d) 市の広報紙への掲載

毎月発行する市の広報紙に掲載する事により地域住民へ広く周知。(図-10)



図-10 2020年12月広報紙掲載

e) 横断幕設置(予定)

工事の開始時に交通の集中を避けるため、横断歩道橋に横断幕を設置する。国道区間だけでなく、広域に周知するため、県道区間にも設置しドライバーに周知。(図-11)



図-11 横断幕設置箇所

4. 渋滞対策

広報と合わせて、警察、高速隊、NEXCOと渋滞対策の協議を行った結果、渋滞時の信号サイクルの段階的な変更、工事期間中の渋滞状況を監視するCCTVカメラの設置及び道路面への方向別路面標示(カラー矢印)を行う事とした。

(1) 信号サイクルの段階的な変更

名神高速道路から国道8号に接続する箇所には交通規制に伴う仮設信号機を設置することから、仮設信号機付近からOFFランプを経て料金所方向まで渋滞が発生する可能性がある。これに対処するため、警察と協議し、高速道路のOFFランプに感知器を設置し、感知器まで渋滞が伸びると国道8号に設置された仮設信号機のランプ側の青時間が長くなり、渋滞した車両を効果的に流動させるシステムを構築した。また、2基設置することにより、渋滞の延伸にあわせて信号現示を2段階に分けて変えることが出来るため、渋滞状況により効果的に対応が可能である。



(2) 渋滞状況を監視するCCTVカメラの設置

渋滞対策として、仮設信号機の信号サイクルの段階的な変更を行うが、栗東第二IC付近の国道8号大橋地区付近は慢性的な渋滞が発生していることから、国道8号の先詰まりにより、仮設信号機が青となっても車が進まないことが想定されたため、CCTVのカメラにより渋滞を監視し、渋滞する交差点の信号現示を調整する案を立案した。しかし、現況2箇所のCCTVから見える範囲に限られているため、直視することができない。

この状況に対応するため、近隣の高い建物にカメラを1台増設し、広域およびタイムリーに名神高速道路栗東料金所の出口付近、国道8号の渋滞状況が把握できるようになり、周辺信号への介入等が臨機で出来る事とした。(図-12)



図-12 CCTV設置予定箇所から国道8号、名神高速料金所

(3) 方向別カラー路面標示

通行経路が変更になった際、ドライバーが迷い円滑な交通の阻害とならないように、工事ステップ2において、名神高速栗東料金所からのOFFランプの道路面に方向別の路面標示（カラー矢印）を入れ、案内看板の矢印色を合わせて、円滑な交通を確保する予定である。(図-13)

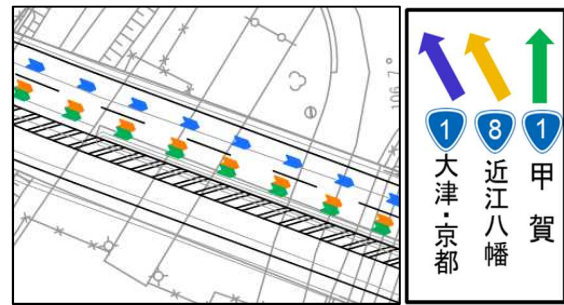
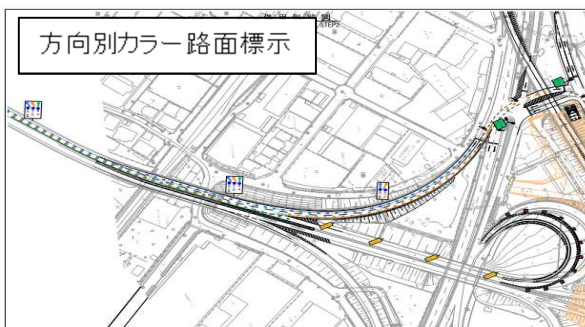


図-13 路面標示と案内看板(ステップ2)

5. まとめ

交通量が多い箇所において、長期間に渡る8段階の通行経路の変更を伴う工事での広報、渋滞対策の取り組みを紹介したものである。

工事規制を前に広報計画を考える中で、どこまで広報を行うか、どのような広報媒体を使うか、どのような内容を盛り込むか、どのタイミングで行うか、予算はどの程度かけるか等、正解がはっきりせず、人によって考え方も異なり、非常に難しいと感じた。

また、関係機関と協議をする中で、『渋滞』の悪化に対する懸念を持っている人が多く、対策について打合せを重ね、信号サイクルの段階的な変更やCCTVカメラによる信号サイクルへの介入、方向別カラー路面標示等を実施する事にしたが、7月中旬頃から本格的に交通規制により、現況より渋滞が悪化しないか実際に規制をかけてみないと分からない。

しかし、広報や渋滞対策について、野洲栗東バイパス連絡調整会議や関係機関協議の意見を踏まえ、最善と考えられる広報や渋滞対策を行ってきた。今後、各工事ステップの交通の状況を見ながら、広報のあり方や渋滞対策を検証していく。

謝辞：本稿の作成にあたり、ご教授をいただいたすべての方々に心から感謝いたします。

参考文献

- 1) 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査